

# 富山の第一印象は、文化が息づく活気ある街。

## クレイグ・モドさん × 藤井市長 対談

今年1月にニューヨークタイムズの「2025年に行くべき52ヶ所」に選ばれた富山市。9月、記事を執筆したライター・写真家のクレイグ・モドさんが来訪し、藤井市長と富山市の魅力について語り合いました。

### 若者が活躍する活気ある街。

**モド氏**：都市の選定にあたり、能登半島地震の被災地支援を考え、昨年初めて富山市を訪れました。街は魅力にあふれているのに、まだ観光客は少なく、大きな可能性を感じて強く推薦しました。

第一印象は、活気のある街です。若い店主が営むお店が多く、みなさんオープンマインドで温かく迎えてくれました。集う人々も個人的でおもしろい方ばかり。最初は運良くいいお店に出会えたのかと思いましたが、どのお店も何度訪れても変わらず歓迎してくださり、すっかり大好きな街になりました。

**市長**：富山の若者は、幼い頃から人とのつながりの中で育つため、人を呼び寄せる力や社交性があると思いますね。

**モド氏**：市内から見える立山連峰や路面電車も印象的ですし、幅広い世代が集まる「キラリ」のような美しい公共建築も、市民にとって大切な場所になっています。今年は念願のおわら風の盆にも行くこともでき、これまで経験したことのない心揺さぶられる感動を味わいました。型にはまらず、あちこちで静かに踊りが始まる雰囲気はとても美しく神秘的でした。富山は文化が息づく素晴らしい街です。



クレイグ・モドさん

### わが街に愛着と誇りを。

**市長**：ニューヨークタイムズで紹介されて以降、外国人観光客の宿泊者数は約1.5倍に増えました。同時に日本人観光客やまちめぐりする市民も増加し、市内外での反響の大きさに驚いています。

**モド氏**：観光客の増加に合わせて特別なことをする必要はないと思っています。今ある地域の伝統や文化の質を高めれば、市民も楽しめるし、自然と人が集まります。まずは自分たちの街を知り、自信を持ってください。

**市長**：市民自ら積極的に富山の良さを発信していくことも重要だと感じています。

**モド氏**：初めて富山に来た時に特別な街だと感じたのは、すでに魅力的な観光資源がたくさんあったからだと思います。街なかの活気や若者の活躍、懐が広くて優しい人柄、山や海の豊かな恵み、そして守り続けている伝統文化など、一度訪れればきっと多くの人が私のように魅了されるはずです。

**市長**：その富山らしさは、私たちが連綿と受け継いできた人のつながりや、助け合って生きていくという心意気から育まれたのかもしれませんが。それを未来へつないでいくことが大切なのですね。

### 個性と文化が生まれるまちづくり。

**モド氏**：日本各地を歩いて感じるのは、地方の過疎化による地域文化の喪失です。このままでは日本の文化は均質化し、魅力を失ってしまうでしょう。富山市に大きな希望を感じるのは、若者が活躍できる豊かで充実した暮らしがあり、このガラス美術館のような公共の場が生き生きとしているからです。また自然に囲まれていることも魅力のひとつ。中山間地域や限界集落のようなところも守りながら、こうした地方都市こそ未来を育む力となる大切な存在です。

**市長**：若者が夢や希望を持ち、お年寄りが笑顔で暮らせる、そんなまちづくりを、これからも一層推進していきたいと思います。ぜひまた、遊びにきてください。

**モド氏**：ありがとうございます。

#### クレイグ・モドさん

アメリカ出身。日本に移住して25年。日本を拠点とするライターで写真家。執筆した数々の記事は、世界的に著名な新聞や雑誌などに掲載されている。

対談の映像は、こちらからご覧いただけます。  
「アメイジングトーク」過去の記事はこちら▶



WEBサイト



TOYAMAキラリ2階ロビーにて対談